


行政視察報告書

公明党
山崎長栄 

会派（21世紀の会・公明党）合同視察の内容を下記のとおり報告致します。

1 研修目的

私たちの町は過去には近代製鉄発祥の地として、また、日本の三大漁場を背景に「鉄とさかなの町」として人口9万2千人を数える副県都市と言われ栄えてまいりました。且つてはラグビー日本選手権での7連覇、5年前の2019年には小さな町の大きなイベントと言われた、ラグビーワールドカップ釜石開催からは「鉄と魚とラグビーの町」と言われていますが、過去の変遷から製鉄は産業構造の変化、そして漁業は200カイリ問題などで長い間景気低迷が続き、さらに13年前の未曾有の東日本大震災によって、今では人口も3万人を割るほど大きく減少し、市民力の低下は勿論、今言われている自治体の消滅に大きな危機感を感じているところでもあります。そうした中、少子高齢化や人口減対策もさることながら私達は、次の世代に繋ぐまちづくりを目指す為にはまず、歴史の節目として、戦後から現在に至るまでの経緯を知る必要があると考えております。私たちの町も1945年の終戦から80年、本州初の艦砲射撃を受け、先人達も復興に尽力して来ましたが、今では残念ながら、多くの市民は「戦争を知らない世代」に入っております。そこで、やはり同じ時期に住民を巻き込んだ戦災を経験し、それを乗り越え、大きく変貌した沖縄市の歴史や文化、産業振興など、復興を遂げた経緯を参考にしたいと思い、今回の視察先にした。

2 研修項目

- ① 小・中学校への平和教育について
- ② 戦後からの復興について
- ③ 沖縄アリーナについて

3 視察日程

令和6年 5月7日(火)～9日(木)

令和6年5月7日(火) 移動日

- ① 令和6年5月8日(水) 10時～11時45分
 沖縄県沖縄市仲宗根町26番1号 沖縄市役所
 対応者 教育委員会 指導部指導課 知念主幹
 市民部 平和・男女共同課
 課長 比嘉 隆二 課長補佐 伊良波 克治
 項目 「小・中学校への平和教育について」
- ② 令和6年5月8日(水) 13時30分～15時45分
 沖縄市中央2丁目2-1 沖縄市戦後文化資料展示館「ヒストリート」
 対応者 会計年度任用職員 伊敷 勝美
 項目 「戦後からの復興について」
- ③ 令和6年5月8日(水) 15時55分～17時10分
 沖縄市山内1丁目16番-1号 沖縄アリーナ管理事務所
 対応者 企画部プロジェクト推進室 主事 平良 二菜
 新垣 結乙
 項目 「沖縄アリーナについて」

令和6年5月9日(木) 移動日

4 参加者

21世紀の会	千葉 榮(議長)	野田 忠幸	佐々木義昭
公明党	山崎 長栄	細田 孝子	(計5名)

沖縄市対応者	瑞慶山 良一郎(沖縄市議会議長)
	藤山 勇一(沖縄市議会副議長)
	町田 裕介(市議会議員)
市議会事務局	議事課 議事課長 金城 優一
市議会事務局	議事課課長補佐兼調査係長 上村 一郎

5 研修内容

① 「小・中学校への平和教育について

< 理念 >

平和とは、単に戦争のない状態を言うのではなく、私たちの街から差別をなくし、弱い立場にある人々を社会の一員として大切にする。小さな子どもからお年寄りまで、障害のある人もない人も、すべての人は人としての存在が尊ばれ、自由平等であり、あらゆる危機から守られる。そして、ゆとりのある豊かな生活が保障され、互いに信頼しあい助け合っている地域環境である。

【平和を守る具体的な取組み】

* 平和に関する情報の提供

- 平和学習コンテンツサイト等の充実・周知
- 基地について知る機会の充実
- 沖縄市史の作成
- 資料施設の周知、展示内容等の充実
- 市立図書館の周知、展示内容等の充実
- 外国人に対する情報提供の充実

* 平和に対する意識の啓発

- 教職員の初任者研修時における平和学習の充実
- 沖縄市戦跡めぐり
- 文化財めぐり（出前講座）等の開催
- 平和学習コンテンツの活用促進
- 沖縄市平和講座の充実
- ※ 資料参照 「公立小・中学校への平和教育取組み状況調査」
- 平和教育に関する情報提供・共有の促進
- 学校における平和教育の推進
- 社会教育団体への平和学習講座の実施
- 平和学習事業の実施
- 国際平和を考える学びの充実

* 市民の主体的な平和活動の支援

- 本市独自の歴史・文化による平和学習の促進
- 平和学習観光ガイドの養成支援
- 市民主体の字詩作成への支援
- 平和大使の育成
- 歴代平和大使の活動の活性化
- 市民が自ら考え行動する平和事業の促進
- コザ地域慰霊祭、美里地域慰霊祭の継続支援

* 平和の発信

- 沖縄市民平和の日記念行事の開催
- 平和月間プログラムの実施
- 平和イメージキャラクター（キューナ）の積極的な活用
- 市内の各種イベント等との連携
- 平和大使ソング 『時代（とき）の語り部』の発信
- 兄弟・姉妹都市との平和交流の促進
- 市民の眼・平和写真展の開催
- 平和に関する標語や詩等の募集
- 市立図書館における平和月間企画の継続並びに内容充実

「小・中学校への平和教育の取組みでの課題」

- ・ 地域の戦争体験者が年々少なくなり、講演依頼が難しくなっている。家族で戦跡めぐりに行けない。
- ・ 「平和集会の後援会の講師を探すのが難しい。
- ・ 戦争体験者の話を実際聞く機会も減って、継承して行くのが難しい。
- ・ いろいろな国籍の児童がおり「アメリカ軍」という表現を使うのに配慮が必要
- ・ 話や小学生向け DVD ではイメージしにくい、リアル過ぎるとトラウマになってしまう。
- ・ 悲しみや悲惨さが強調され自分事としてとらえさせる事が難しい。

※ 平和教育の取組みとして、絵やマンガで表現を柔らかく、子どもたちに受け込みやすい方法などを考え実行している。

沖縄市役所内での研修模様



平和教育の研修模様



教育委員会から平和教育の
研修模様様



沖縄市議会議場



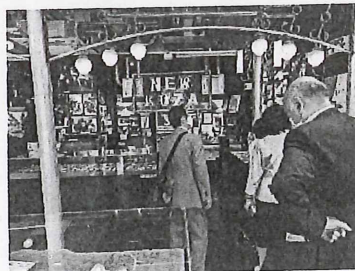
沖縄市議会議場

② 沖縄市戦後文化資料展示館ストリート

沖縄市の戦後史に焦点をあてた展示館。多数の写真展示と担当職員による詳細な説明を受ける。出入口に設置された米軍基地フェンスや米軍製酸素ボンベを利用した半鐘など、戦争当時を彷彿させる展示に驚いた。また壁に貼られた1ドル紙幣に米軍のカマボコ兵舎、沖縄産の飲料水のビンなども展示。異彩を放つ沖縄市の戦後史と文化を肌で感じるように工夫を凝らした展示館だった。



展示館ヒストリート



展示館1階



展示館2階

③ 沖縄市アリーナ

○ 沖縄最大の1万人規模の大型施設。沖縄県内はもとより、日本国内、外国からも集客を図る「観るため」の施設。プロスポーツ観戦やコンサートを「観る」に主眼をおいたアリーナ

○ 規 模 2万6200平方メートル
収容人数 8000人~10000人
建 設 費 139億4000万円

うち、防衛省ほか政府からの補助金約84億円
市単費 約13億円 ほか地方債

○ 運 営 指定管理 沖縄アリーナ株式会

※ 業績が好調で2022年、2023年の年間6400万円の指定管理料を受け取らず。2024年も取らない予定



沖縄アリーナ館内



アリーナ3階



館内女子トイレ27個

< 所感 >

1945年9月7日、旧越来(ごえく)村森根(現在の嘉手納飛行場沖縄市域)で米軍と南西諸島の日本守備軍との間で降伏調印式が行われ、沖縄戦が終結した。

沖縄市では、公式に沖縄戦が終結した9月7日を「沖縄市民平和の日」と定め、8月1日から9月7日を平和月間とし、平和に関する様々な事業を実施している。

しかし時と共に戦争を知らない人が増え「悲惨な沖縄戦での体験や教訓をどう未来に引き継いで行くか」が課題となっている。同時期(1945年)本州で初めて艦砲射撃を被った当市でも、戦後から現在にいたるまで、先人達が復興に尽力を尽くして来ましたが、残念ながら「戦争を知らない世代」に入っており、戦争の悲惨さ、人命の尊さを後世に伝える人も少なく、その意識が希薄になっていると感じております。沖縄市では米軍基地建設から派生する様々なエネルギーに支えられ、のどかだった農村には県内から人々が集まり急激な都市化を遂げ、県下第二位の人口を擁する中心都市として発展して来ましたが、同時に「二度と戦争を繰り返さない」という世の中を後世に伝える教育を市民全体で取り組んでいる姿勢に感銘した。私たち釜石市民としても平和に対する意識を見直し、戦争を伝える関係団体などに働き掛け、「平和の日」または「平和週間」を制定するアクションも必要ではないかと感じた。

報告担当 佐々木 義昭 細田 孝子